花粉開葯所盛況

今年も農協本所倉庫に花粉開葯所を設置し、多くの生産者が花粉の開葯に訪れていました。

近年、マメコバチの減少がリンゴの結実に影響を及ぼしているため、確実な結実と良品生産を目的とした人工授粉が行われています。農家さんは、王林や金星、世界一などの開花直前（風船状）になった花を摘み取って持参します。その後、葯（やく）採取機を使って花から葯を取り出し、ふるいで余分な花弁などを選別して箱に敷き詰めます。これらを加温した乾燥室で乾燥させた後貯蔵し来年預かった農家さんへと引き渡されます。

リンゴの花を開葯機へ

ライスロマンクラブ 本格始動!!

4月末からの耕起や代掻きを経て、5月21日からは、いよいよ田植が始まり大忙しな季節がやってきました。初日はあいにくの曇り空となりましたが、東部班から元気よく作業がスタート。その様子を見守っていた花田勇人組合長は、「今年は苗がなかなかの出来栄え。良い秋（収穫期）を迎えられるのではないかと期待しています」と笑顔で意気込みを語ってくれました。

ＧＰＳ搭載された田植え機で
作業効率アップ！

ネパール技能生 リンゴ学習

5月1日、ネパールからの技能実習生を対象とした、リンゴの摘花作業の実技研修会が五所地区の園地で開催されました。研修の前半は本所2階の大会議室で行われ、齊藤大貴主任が資料や映像を使って事前講義を実施。通訳を介して詳しい説明が行われました。後半は、指導課職員と一緒に実際の畑へと出向き、実技研修では「ふじ」の摘花作業を行ないました。

園地での農作業を安全に進めるため、傾斜地における梯子（はしご）の正しい使い方についても熱心に学びました。

摘花を作業してみる参加者たち

第二回　巡回講座開催

5月14日、相馬管内12ヶ所で第2回巡回講座が開催され、生産者92人が出席しました。農業振興課や普及振興室の職員が、リンゴの生育状況や今後の作業計画、さらに農作業の安全対策について説明を行いました。

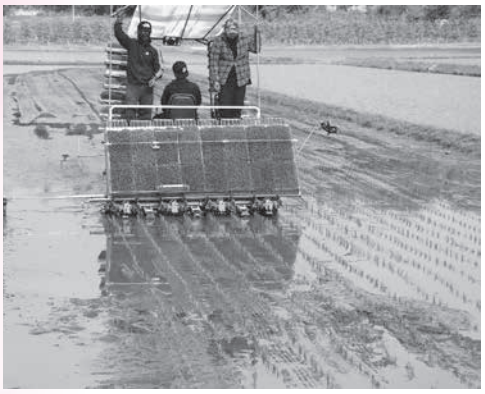
当日は生産者からも積極的な質問が相次ぎ、「ヨトウガ」への対策や、気温の上昇に伴う「ダニ剤単体の特別散布」に関する相談が出るなど、これからの管理に向けた関心の高さがうかがえました。

次回の講座は、6月中旬に開催を予定しています。

多くの生産者が熱心に耳を傾けていた。

青年部　もち米田植え

5月19日、農協青年部は湯口地区の水田にて、貴重な財源となるもち米の植え付けを行いました。当日は、部員たちが農作業の合間を縫って集まり、手際よく作業を展開。すべての植え付けを無事に終え、一同ホッとした表情を浮かべていました。今後は、水田の管理から秋の刈り取り、精米、袋詰めまでの一連の作業を青年部が自ら行います。年々リピーターが増加している自慢のもち米は、秋に直売所「林檎の森」の店頭に並ぶ予定です。



田植え作業も手慣れたものです。

使用済プラスチック収集

5月25、26日の2日間にわたり、ＪＡ相馬村の湯口支所と相馬支所において、農業用使用済プラスチックの収集が行われました。この取り組みは、農業資材の使用後に発生する廃棄物を適切に処分することを目的としており、定期的に肥料や農薬の空容器などの回収を行っています。当日は朝から多くの生産者が訪れ、使用済みの容器や反射シートのほか、今年の大雪で折れ曲がってしまった支柱などが次々と持ち込まれました。2日間で集まった廃棄物は、合計2,130キロにのぼり、地域の環境保全に向けた生産者の意識の高さがうかがえました。

農薬の空容器も回収

豪雪で曲がってしまった支柱

清水森ナンバ苗配布

5月29日、津軽藩ねぷた村で「清水森ナンバ」の苗の配布が行われました。相馬管内では沢田地区・大助地区の計3名が栽培を続け直売所へ出荷してきました。しかし、高齢化による存続の危機に直面。そこで今年からは、田澤真由美女性部長と中嶋美保子副部長が栽培を引き継ぐことを決めました。先輩たちの想いを受け継いだナンバ栽培の新たな一歩が始まっています。

７月上旬には直売所店頭に並ぶ予定です。